



はやちねさん
早池峰山の森林観察（東北森林管理局）

3 国有林野の林産物の供給

3 国有林野の林産物の供給

(1) 計画的な収穫の実施

国有林野事業では、木材等の林産物について、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を進めることを基本として、自然環境の保全等にも十分な配慮を行いながら、持続的・計画的な供給に努めています。平成21年度には780万 m^3 の木材を収穫しました。

特に、現在、地球温暖化防止のための森林吸収源対策として間伐等の森林整備を積極的に進めており、木材の有効利用の観点から、この森林整備の結果として得られる間伐材等の搬出・供給に取り組んでいます。

また、多様な森林を有しているという国有林野の特性を活かし、民有林からの供給が期待しにくい大径長尺材や、木曽ヒノキ、天然秋田杉等の銘木の計画的な供給に努めています。

表－18 収穫の実施状況

(単位：万 m^3)

区分	平成21年度	(参考)平成20年度
主伐	137	139
間伐	643	564
合計	780	704

注 計の不一致は、四捨五入による。

表－19 民有林からの供給が期待しにくい樹種の素材(丸太)供給実績

(単位：万 m^3)

樹種名	平成21年度	(参考)平成20年度
ヒバ	1.1	1.2
木曽ヒノキ	0.3	0.4
天然秋田杉	0.1	0.1

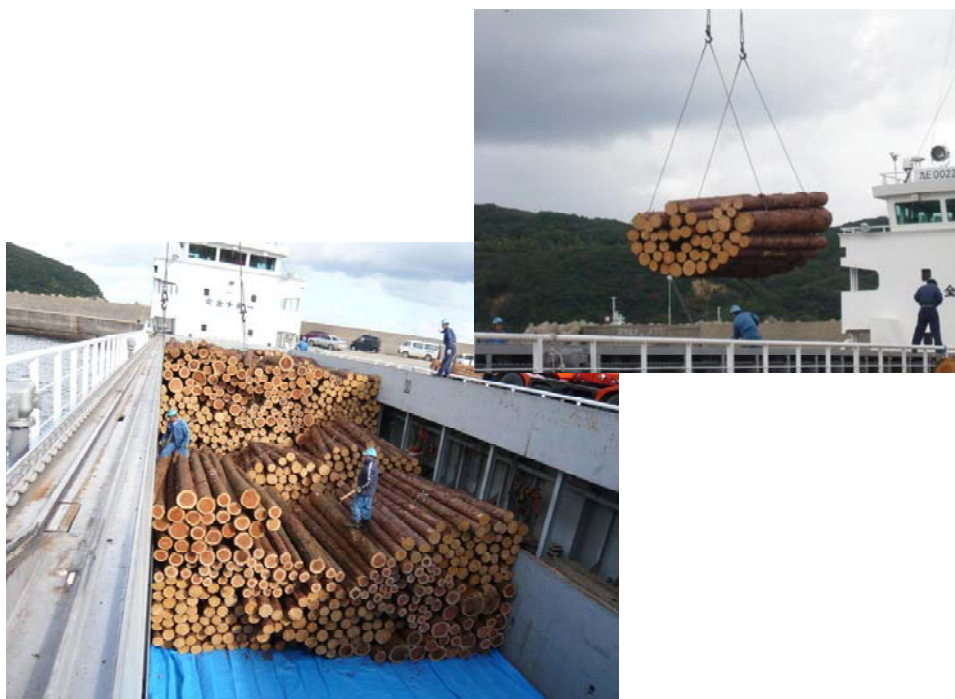
事例 民有林と連携した間伐材の共同出荷

対馬では、島内だけでは木材の需要量が少ないことから、間伐実施の遅れが懸念されています。

長崎森林管理署では、対馬流域森林・林業活性化センターと連携して、民有林との木材の供給計画の共有化と島外への間伐材の共同出荷に取り組んでいます。

平成21年度は、民有林材（930 m^3 ）、国有林材（630 m^3 ）合わせて1,560 m^3 を佐賀県の原木市場に共同出荷しました。

（九州森林管理局 長崎森林管理署）



場 所：長崎県対馬市

説 明：写真は、対馬の港での民有林材と国有林材を合わせた間伐材の積込作業の様子です。

(2) 林産物等の販売

平成21年度の木材販売量は、立木販売^{注)}については5万m³減少して61万m³に、素材（丸太）販売^{注)}については24万m³増加して204万m³となりました。

販売に当たっては、集成材^{注)}・合板^{注)}工場や大手住宅メーカーへ納入している製材工場等、これまで主として外材を利用してきた大口の需要者に対して、原材料となる木材を安定的に供給する「システム販売」を推進しています。さらに、これまで十分に利用されてこなかった間伐材等の未利用材の利用拡大にも努めています。

このほか、インターネット等を活用し、迅速かつ広範囲に公売情報を提供したり、民間市場への素材販売の委託を行うなど樹材種の特質に応じた有利な販売や販路の拡大に努めるとともに、民間では供給が難しい文化財の修復資材用として販売を行っています。

このように、林産物等の販売に努力した結果、平成21年度の林産物等収入は204億円になりました。

なお、平成20年秋以降の急速な景気悪化を背景とした新設住宅着工戸数の減少等により、木材需要が大幅に減退し、木材価格も急激に下落したことから、地域の需給動向に応じた木材供給の調整を行いました。

表－20 林産物等販売の状況

(単位：万m³、億円)

区 分	平成21年度		(参考)平成20年度	
	数 量	金 額	数 量	金 額
林産物等収入	—	204	—	227
立木販売	61	16	66	17
素材販売	204	173	180	193
その他	—	1	—	1
分収林等	121	13	110	16
(うち民収分)	(78)	—	(67)	—

- 注：1 数量は、立木販売、分収林等については立木材積で、素材販売については素材(丸太)材積で示している。
 2 その他は雑収である。
 3 分収林等は、分収造林、分収育林、官行造林であり、金額はそれぞれの官収分となっている。
 4 立木販売の金額には、立木販売の他に環境緑化用樹木、立木竹及び幼齢木補償料等が含まれる。

表－21 国有林材の販売単価の動向

(単位：百円/m³)

年 度	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21
立木販売	19	18	14	15	18	21	20
素材販売	225	192	135	130	118	107	85

- 注：販売単価は、立木販売については立木材積単位、素材販売については素材(丸太)材積単位の年間平均単価(実績)で示している。

表－22 地域の需給動向に応じた木材供給調整の事例

森林管理局	対 応
九州森林管理局	川上、川下の民有林関係者を含めた地域での意見交換会等を実施し、原木市場等への上半期の出材を年間総量の3割に抑制(平成20年度は4割)する一方、下半期は木材市況の回復や出材要請を受け、出材ペースを回復するなど、地域の需給動向に応じた供給に努めた。

事例 地域の伝統行事への木材の供給

諏訪大社では、七年毎干支の「寅」・「申」の年に、宝殿の造営と遷座及び社殿の四隅での「御柱」と呼ばれるモミの巨木の曳き建てを行う「式年造営御柱大祭（御柱祭）」が行われます。

南信森林管理署では、地域の協議会と木の文化を支える森協定を締結している東侯国有林の「御柱の森」から「御柱」に使用されるモミを供給しました。

また、このような木の文化を守るため、地域の協議会等と連携して、モミの植樹やシカ食害防止ネットの設置等を行いました。

(中部森林管理局 南信森林管理署)



場 所：長野県諏訪郡下諏訪町 東侯国有林ほか
説 明：写真は、平成22年に行われた御柱祭の様子です。

事例 「システム販売」による低質材の供給

磐城森林管理署では、これまで使われずに林内に残されていた低質材等を有効活用するため、専用コンテナによる端材の効率的な回収に取り組んでいます。

平成21年度は、端材を含めて低質材約8千m³をシステム販売により供給しました。

販売された低質材は、チップ生産事業者により木質チップに加工され、パーティクルボードやボイラー燃料に利用されました。

(関東森林管理局 磐城森林管理署)



場 所：福島県いわき市 仏具山国有林ほか

説 明：写真は、専用コンテナへの端材等の積み込みと、そのコンテナの運搬の様子です。